



大正モダンの雰囲気を残す記念館

CONTENTS

● Feature Story — 国の登録有形文化財

「樟徳館」 4年ぶり一般公開

1

● SHOIN LABO — 「文学の奥深さや学ぶ楽しさを伝えたい」中 周子先生 3

● こもればの窓 — 「女優・いちえ」を知ってもらいたい 女優・いちえさん 5

● WingBEAT! — 「いつでも自分らしく、自然体で挑戦し続けたい」 ■■■■さん 7

● 育むところ — 「生徒、学生一人ひとりが持つ輝きを大切に見守り続けたい」芳野 操先生 8

● NEWS — 「笑顔の花満開の若葉祭」ほか 9

● CLUB NAVI — 中学校・高校 ダンス部 16

● Information — 公開講座などイベントのお知らせ 17

● FORUM — 「卒園児パラリンピック出場／中高クラブ活動報告」ほか 18

● リレー★コラム 濱田 信吾先生 & STAFF@SHOIN 橋本 友紀子さん 19

はばたけ、知性。

「樟徳館」4年ぶり一般公開 2000人以上が来館



Shotokukan

国の登録有形文化財である「樟徳館」を11月12日(土)、13日(日)の2日間、一般公開しました。両日も天候に恵まれ、2000人を超える来館者で賑わいました。NHK連続テレビ小説「あさが来た」のロケ地になったことで関心を持たれた人も多く、8割以上が初参加。建築士や茶道家元、宮大工、ガラス工芸職人といった専門家が来られたほか、東京、島根、熊本など遠方からの参加もありました。



朝ドラを回想する人も
この玄関もNHKの「あさが来た」の撮影で使われました。今回はその撮影シーンをパネルにして展示。ドラマを回想されている方も大勢いらっしゃいました。



秋晴れのもとで、おススメスポットも紹介
中庭では一日2回、藤原準二監事が樟徳館の魅力「見どころマップ」とあわせて説明。毎回、超満員で皆さん、監事の説明に聞き入っておられました。

◆ ◆ ◆
今回は、建物の魅力をより深く知ってもらおうと「見どころマップ」を配布し、各部屋には解説パネルを設置しました。さらに、学園の藤原準二監事が建築の経緯や見どころを解説する説明会も開きました。また、会場では大学茶道部の学生が袴姿で来館者をおもてなしし、多くの皆さまに4年に一度の機会を堪能していただくことができました。



居間から眺める日本庭園
居間から眺める日本庭園は、まるで京都の寺院にでも来たような風情があり、室内から眺めても、庭で歩いても美しいように設計されています。



大学茶道部の学生が袴姿で案内
当日は受付や館内の案内を袴姿の学生が手伝いました。館内での学生たちの袴姿は、昭和初期にタイムスリップしたような雰囲気になりました。

大正・昭和の趣を今に伝える「樟徳館」

樟徳館は、学園の創立者で大阪有数の材木商だった森平蔵(1875～1960年)が7年の歳月をかけ1939年に完成させた私邸です。平蔵は三陸、木曾、吉野、山陰、日向などの全国各地から原木のまま取り寄せ、敷地隣地に製材所を設け、自ら墨がけや木取りするほどであったと言われています。

外観は純和風、内観は和洋折衷の意匠が施されているのが特徴です。母屋は関西で最高とされる松普請。仏間や次の間は杉の銘木で普請されています。応接室は天井に大きな楠の一枚板、壁には火灯(花頭)窓、牡丹の花をモチーフにしたステンドグラスを用いるなど、当時の最高技術が集結しています。

建物は平蔵の遺志により学園に寄贈され「樟徳館」として、その建築美を今に伝えています。2000年には「造形の規範となり、再現が容易でないもの」として、国の登録有形文化財に登録されています。



木のぬくもりが温かく迎え入れてくれる応接室
六寸角の四方柱の柱は、色や風合いを統一させるために一本の尾州産ヒノキの大木から切り出されており、当時の最高の材料と職人の技が集められている。



洗練されたデザインのステンドグラス
応接室内壁面の西陣織り織りのクロス、花頭窓をイメージさせる窓のエッチングガラス、温かい色彩を放つステンドグラス、これらは全て牡丹の花のデザインで統一されている。



和風にアレンジされたアールデコ調のシャンデリア
食堂でひときわ目につくのがシャンデリアと木彫りのマンテールピース。デザインはアールデコ調だが、和のテイストで仕上げられており、欄間は梅とツバメがあしらわれたエッチングガラスとなっている。



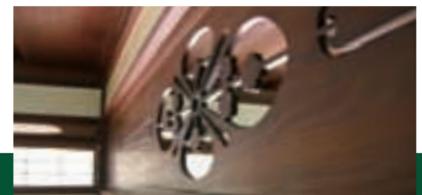
関西で最高といわれる松普請の洋風居間
松の銘木が天井と柱に贅沢に使われ、床はチーク材を使用した寄木貼り、光の反射と木目を考慮し、幾何学模様浮かび上がるよう計算されている。

樟徳館(しょうとくかん)
■基本データ
建築構造:木造瓦葺2階建
建物面積:1,301.81㎡
敷地面積:2,880.15㎡
2000年10月、主屋、土蔵、鎮守の社、門、東塀、南塀の6点が国の登録有形文化財に登録

ホームページ
<http://www.osaka-shoin.ac.jp/culture/>



ダイヤルの数字が20まである電話
昭和初期の電話は通話の質も悪く、聞き取りにくかったために電話室が作られた。そして電話機はダイヤルが20までの数字があるという、今では非常にめずらしいもの。



洋風居間の透かし彫りの欄間
桑の木のすかし彫りで、「三大名刹」の一つである京都の醍醐寺奥の院の透かし彫りを模したといわれている。通常、桑の木は太くなりにくい木で、直径20cmでさえ稀少なものであるが、ここでは60cm以上の丸太が使用されている。



杉普請の仏間・次の間
天井板は最高級の吉野杉が使われ、それぞれ仏間は柱目、次の間は中空で仕上げられている。床の間は表千家不審庵の残月亭を手本としたと言われている。

参加者の声

- 木材の贅沢な使い方に感動しました。
- スケールの大きさに圧倒されました。
- 贅沢な時間を過ごすことができました。
- 公開の機会を増やして欲しい。

- 解説パネルが部屋ごとにあって、興味を持って楽しむことができました。
- 別世界に来たような感覚で感動しました。
- 保存状態の良さに驚きました。
- 東大阪の誇れる文化財だと思います。
- 応接室の天井の楠の一枚板に感動しました。

- 床のデザインがとても美しくすばらしかった。
- 去年亡くなった主人が一度、中を見てみたいと言っていたので、主人の写真を持って参加しました。
- 最高級の木材と木目の美しさに感動しました。
- 日本建築のすばらしさを改めて感じました。



文学の奥深さや 学ぶ楽しさを伝えたい

中周子 先生

大阪樟蔭女子大学 学芸学部国文学科教授、
田辺聖子文学館副館長

歴史と伝統のある国文学科で教鞭をとる中周子教授。平安時代の文学を中心に古典から現代まで幅広く日本文学の面白さや、研究の楽しさを伝えています。

『紫式部集』との出会いがきっかけ

もともと本を読むことが好きで、大学へ進学し国文学を専攻しました。3回生のときに紫式部の和歌を集めた『紫式部集』の講義を受け、『源氏物語』作者の実人生を垣間みる面白さと、和歌を解説する面白さを知ったことがきっかけで国文学の道に進みました。それまで和歌の意味は辞書を引けば分かると思っていました。しかし、和歌を解釈する作業には膨大な時間が必要で、未だに解釈出来ない和歌もあるということに興味を惹かれました。「読書」とは全く違う「研究」の面白さに魅了されました。

「ブンガク」の楽しさを伝えたい

最初は、専門の古典文学を教えていましたが、最近の授業では、古典文学から近現代文学、マンガや映画の台詞や歌詞も取り上げています。日本語で書かれた人間模様すべてが「日本ブンガク」だと考えるようになりました。例えば『源氏物語』の授業では、原文だけでなく与謝野晶子や谷崎潤一郎や円地文子の現代語訳を用います。田辺聖子の『新源氏物語』も現代小説ともいえる興味深い翻訳です。近現代作家たちの現代語訳と比較することで、原文の表現の特色がよく見えてくるのです。『源氏物語』は絵巻やマンガや映画の題材にもなっていますね。どのように絵画化されているのかを分析することも面白いですよ。成立当初から長らく『源氏物語』は書き写されていました。昔の人々

はあんな長編を書き写して残そうとしたのです。そして今でも書店には『源氏物語』が並んでいます。毎年のように様々な関連本が出版されたり、話題にされたりしているのです。いつの時代も「ブンガク」は人の心を楽しませるものだというのを伝えたいですね。

樟蔭での30年

関屋キャンパスに樟蔭女子短期大学が開学された1987年に着任して、その後、大阪キャンパスに移籍しました。樟蔭にきてからは30年も経ってしまいました。やはり、着任当初のことは思い出深いですね。新設の短期大学だったので、最初は教員と1回生しかいないわけです。文化祭にしても行うかどうか、どんな名称にするか等々、何もかも学生と一緒に決めて実施していきました。短期大学なので卒業論文も正式な科目(単位)にはなっていなかったのですが、ゼミの学生たちと話し合って書くことにしようと決めました。2回生の演習の授業の最後のレポートが卒業論文で、たった2単位のために皆よく頑張ったと思います。文学散歩やゼミ旅行、学園祭での「焼きそば」の模擬店、手作りアルバムの制作等々、思い出は沢山あります。大阪キャンパスに移籍してからも、学年全員で葵祭を見に行ったり、ゼミの学生たちが中心になって文芸同好会や源氏物語研究会(現



「拾遺和歌集論攷」

なかしゅうこ
京都府出身。同志社大学卒業。大阪女子大学大学院(文学修士)、大阪府立大学大学院(博士・言語文化学)。樟蔭女子短期大学教授を経て、2001年に本学学芸学部国文学科教授。2007年から田辺聖子文学館副館長を兼任。著書に『和歌文学大系 紫式部集』(明治書院)『拾遺和歌集論攷』(和泉書院)など。



若樟祭(関屋キャンパス) 模擬店の様子

在は文芸部、古典部に昇格)、田辺文学を読む会等を始めたことも良い思い出です。「よく学び、よく遊ぶ」が私のゼミのモットーですが、私自身が授業を楽しんでいます。30年間、樟蔭の学生に接して思うことは、学生は素直で明るくて真面目。時代は変わっても学生の持つすばらしい雰囲気は変わりませんね。学生たちからいつも元気をもらっています。



ゼミの卒業論文

田辺文学の魅力

学園創立90周年を記念して2007年に「田辺聖子文学館」がオープンしたとき、副館長に就任しました。もちろん、田辺文学は読んでいましたし、授業でも取り上げていました。文学館の開館記念式典で、初めて田辺聖子さんに会った感動は忘れられません。樟蔭に勤めていて本当に良かったと思いました。田辺文学の魅力はひとことではとても言い表せないのですが、豊富な語彙、多様な文体、柔軟な発想、日本古典文学の継承、温かい人間観でしょうか。田辺聖子文学館には、10代のころに書かれた作品も所蔵していますが、その描写力、文章力にも驚かされます。天性の作家だと思います。

もっと田辺文学の研究を

日本の女流文学の系譜を、紫式部、与謝野晶子、田辺聖子と捉えてはどうかと、私は考えています。田辺聖子の作品は面白いので愛読

者は多いのですが、まだ研究者は少ないようです。軽妙で平易な文体の作品が目立つために、研究対象にならないと思われるのかも知れません。しかし、ひとたび、田辺作品を読み始めると、緻密に創造された壮大な田辺ワールドに圧倒されるはず。ことに、古典作品とその作者に対する研究熱には感服しています。古典小説や評伝小説の中には、堅実な考証と研究に裏付けられた作品も多くあります。

2016年12月に本学で開催した全国大学国語国文学会の大会では、「女性作家と源氏物語」のテーマで、田辺聖子の『新源氏物語』を取り上げました。これからは学界でも、田辺聖子研究が盛んに行われることを願っています。私も及ばずながら田辺文学の面白さと「すごさ」の所以を伝えてゆきたいと思っています。

樟蔭の学生へ

長い人生の中では、行き詰まったり絶望したりすることがあるかも知れませんが、そのときのために、学生の皆さんには田辺さんのこんな言葉を心に留めておいてほしいと思います。「若い日の夢はあきらめずにじっと抱いていないといけな。自分の身内に力が満ちてきたとき、必ずその卵は孵る」「いつも希望を持ってください。そして、希望というのは消えやすい。萎えやすい。衰えやすい。でも、それをリフレッシュするための方法を、自分なりに考えてちょうだい」樟蔭の大先輩からの実感のこもったメッセージですね。

中先生、教えてください！

○ 学生にすすめたい田辺作品

自伝小説『しんこ細工の猿や雉』には樟蔭の思い出も書かれています。樟蔭生には是非とも読んでほしい作品です。また、画期的な古典小説『新源氏物語』や『隼別王子の叛乱』、文学者の評伝小説『花衣ぬぐやまつわる…』や『ひねくれ一茶』、エッセー「人生は、だまじだまし」等々おすすめしたい本は沢山あります。どの作品も豊かでこころよい言葉のひびきと温かい人間観に満ちています。

○ 好きな言葉

田辺さんの好きな言葉ですが「まいにちばら色」という言葉が、私も好きです。どんな時にも口に出すと元気になります。楽しい時は一層楽しくなるし、悲しい時も悲しんでいても仕方ないと、気を取り直せます。常に楽しみながらパワフルに作品をつくりあげる田辺さんにお会いし、「まいにちばら色」って思える生き方を見つけた気がします。



「女優・いちえ」を知ってもらいたい いちえさん

女優
樟蔭中学校、樟蔭高等学校を卒業。
2016年3月、大阪樟蔭女子大学学芸学部健康栄養学科(現 健康栄養学部 健康栄養学科)卒業

いちえ ● 大阪市出身。アカデミー児童劇団を経て現在、「MC企画」所属。舞台「楽屋」「鬼の居ぬ間に」「笑門には福来たる〜女興行師 吉本せい〜」のほか、NHK放送90年ドラマ「経世済民の男 小林一三」、FM千里「旭堂南陵のなにわ友あれ」などに出演。舞台を中心にテレビドラマ、ラジオ、CM、声優、ナレーションなど幅広く活躍中。

女優のいちえさんは、NHK朝の連続テレビ小説「べっぴんさん」に出演したのをはじめテレビやラジオなど、その活躍の場をどんどん広げています。さらに最近ではCMや声優にも挑戦、オールマイティーに輝くいちえさんに、今の思いを聞きました。

◆連続ドラマの出演

「べっぴんさん」への出演は私の中で大きなものでしたね。とにかく多くの人に「いちえ」って名前を知ってほしかったので、小さな子供からお年寄りまで幅広い年齢層の人が見る朝ドラ出演はとてもありがたかったです。実はヒロイン役でオーディションを受けたのですが、落ちてしまって。すごく落ち込んでいたら、軽快な大阪弁を話す個性的な役柄の麗子役でオファーが来たんです。オーディションは、他の人とは違った個性的な演技を心掛けたから、監督が私の演技を覚えてくださっていたのは、とてもうれしかったですね。

◆4歳で劇団に入り、舞台に

4歳で「アカデミー児童劇団」に入り、子役で舞台に立っていました。きっかけは3歳、観劇好きの母がミュージカル「オズの魔法使い」に連れて行ってくれたのですが、私は最後まで立ったまま食い入るように見ていたそうです。そんな姿を見た母が劇団に入れてくれました。一人っ子なので、お兄ちゃんやお姉ちゃんに会えるのがうれしくてね。稽古に行くのが楽しかったんですよ。



◆同級生に助けられて

樟蔭を選んだのは、伸び伸びと育ててもらえるイメージがあったからです。大学は演劇以外の分野で、視野を広げて学ぼうと、健康栄養学科に進みました。大学で学びながら週2回の歌やダンス、芝居のレッスンを続けましたが、栄養士の資格をとる勉強が想像以上に大変で悩んだこともありました。その時、同級生のみんなが「一緒に卒業しよう」と言ってくれた言葉に救われ、勉強と芝居を両立させることができました。多忙な自分を支えてくれた友だちにも感謝しています。

大学祭「くすのき祭」にて

◆大学3年生のときに、女優の道へ進もうと決めました

就職活動を始めた大学3年生になって、本当にやりたいことは何だろう？と考えたら、やはり「表現すること」でした。キャリアセンターのスタッフの方に「やりたいことが決まっているのなら、続けてみれば」と背中を押してもらえ、不安ながらも女優の道へ進もうと決めました。決意を母に話すと、母は女優の道に進むもんだと思っていたようで、私が迷っていたことに驚きながらもとても喜んでくれました。母や友だちの支えがあって、今の私があるんだなあと思っています。



舞台「鬼の居ぬ間に」に出演

◆個性派女優を目指し

今年、芸歴20年を迎えるのですが、女優としての心構えがようやくできてきた状態です。まずは自分を知ってもらうことが大事ですから、表現できる場所だったら形にとらわれず何でも挑戦したいです。得意なのは三枚目。面白いって言われるのがうれしいし、三枚目が演じられるって芸人さん以外にいないと思って。小さいころから、人と違うことをやりたいという意識が強いのも私の魅力のひとつだと思います。目標はあこがれの女優、戸田恵子さんのように二枚目も三枚目もできて、さらに歌やダンス、声優もできる女優。「個性派女優のいちえ」と言われるようになりたいです。そして、三谷幸喜さんの作品に出演できるように頑張りたいですね。

一番大切にしているもの

高校では軽音楽部の部長を務めました。全国の高校、中学校軽音楽系クラブによるコンテスト形式のフェスティバル「We are Sneaker Ages」のステージに立つのを目標に頑張りました。優勝はできなかったけど、準決勝まで進めました。必死に練習してあこがれのステージに立てた時はうれしかったです。その時の参加証を今も大切に飾っています。



◆後輩の皆さんへ

私の同級生に夢を叶えるために努力を惜しまない人がたくさんいて、彼女たちの熱く夢を追う姿にとても刺激を受けました。樟蔭は本当に個性的な人が多く、それぞれの可能性を信じて、大切にもらえるところでした。後輩の皆さんには、何事もあきらめないで、やりたいことがあれば、とことんやってみる。本当にやりたいことを見つけて、挑戦してほしいですね。



いつでも自分らしく、自然体で挑戦し続けたい。新体操、大学の学びを通じて学んだこと。

中学・高校・大学の新体操選手たちは、芳野先生の指導のもとで研鑽を積み、国内外の大会で優秀な成績を挙げています。なかでも、大学生の●●●●さんと■●●●さんは国内外の大きな大会で輝かしい成果を遂げ、新体操選手たちの牽引役として大活躍。ライフプランニング学科の学生として、大学の学びにも全力で取り組んでいます。

学業とスポーツ、気持ちを切り替え、両方とも全力で取り組んでいます。

ライフプランニング学科 3回生

●●●●さん

高校までは新体操に打ち込んできましたが、大学では自分の幅をより広げたいと考え、新体操とAGGの両方ができる大阪樟蔭女子大学への入学を決めました。AGGは、手具がない分、自分たちの身体だけで表現する一方、新体操にはリスクの高い技に挑戦するおもしろさがあり、2つの競技は似ているようで全く違うと思います。

■さんは私にとって、大きな存在。

彼女がレベルアップしていく姿を見ると、励みになります。また、落ち込んでいるなど感じた時には、あえて楽しい話をしたりして、お互いに気持ちを明るく持つように声かけします。

普段の練習の中では、日によってコンディションが違い、身体がうまく動かない日もありますが、そういう時もあせらず「今日の目標」を決めて、じっくり取り組むようにしています。

高校のころから「勉強は勉強、新体操は新体操」と切り分けて考えてきました。だから私にとって、学業とスポーツの両立はごく自然なことです。いつも時間の効率的な使い方を考えながら、授業で出された課題をきちんとクリアするように努力しています。

ライフプランニング学科は社会やビジネスについて、学べる幅が広いのが魅力です。地域と企業、大学の連携によるビジネスプランを企画することもありますし、マーケティングを学ぶ一環として、企業見学にも行きました。将来は教職免許を取得して、家庭科の先生になることも視野に入れて学んでいます。どんな仕事に就いても、何らかの形で新体操とAGGに関わっていくつもりです。



Profile ●●●● 愛媛県済美高校卒業。新体操同好会部長。AGG(※)2016ワールドチャンピオンシップ(チェコ大会)国別3位、2016龍潭新体操国際大会(台湾)個人総合優勝など多数。ライフデザインコースでビジネスの基本を仲間と一緒に楽しく学んでいる。

今しかできないことに本気で頑張る。そんな毎日がとても楽しいです。

ライフプランニング学科 2回生

■●●●さん

新体操の選手として、ふだんから心がけているのは「いつも努力すること」と「力を抜かないこと」。試合前は、気負いすぎて失敗することがないように「いつも通り」を心がけています。

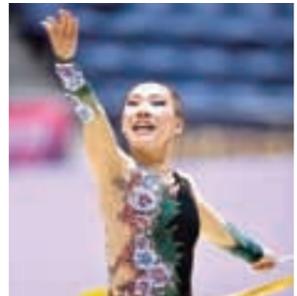
選手生活の中で楽しいのは、毎日練習してきて、難しい技ができるようになった時と、人前で演技して、自分が注目を集めていると感じる時です。好きな種目は、フープとクラブ。ただ、フープは

大好きな反面、難度の高い技を決めようと気負いすぎて成功しないことがあるので、要注意種目でもあります。コンディション管理の必要性から、日頃から体脂肪率に気を配ってきたこともあり、料理や食事について深く学べるライフプランニング学科のフードスタディコースに興味をもって入学しました。好きな科目は、調理とその後の試食が楽しみなフードスタディ実習。料理器具の使い方、盛りつけや食器の並べ方などが学べる点も魅力です。大学生として残された時間の中で、全日本選手権でさらに上位の成績をめざしていこうと思っています。将来のためにも、栄養や食事に関してもっと多くのことを学び、卒業後は新体操のコーチになって世界で活躍する選手を育てることが夢です。

大好きな反面、難度の高い技を決めようと気負いすぎて成功しないことがあるので、要注意種目でもあります。コンディション管理の必要性から、日頃から体脂肪率に気を配ってきたこともあり、料理や食事について深く学べるライフプランニング学科のフードスタディコースに興味をもって入学しました。好きな科目は、調理とその後の試食が楽しみなフードスタディ実習。料理器具の使い方、盛りつけや食器の並べ方などが学べる点も魅力です。大学生として残された時間の中で、全日本選手権でさらに上位の成績をめざしていこうと思っています。将来のためにも、栄養や食事に関してもっと多くのことを学び、卒業後は新体操のコーチになって世界で活躍する選手を育てることが夢です。



Profile ■●●● 兵庫県立姫路高校卒業。新体操同好会所属。西日本学生体操選手権(西日本インカレ)2015、2016年個人総合優勝など、多くの大会で優勝、上位入賞。フードスタディコースの学生として、料理、お菓子の研究にもチャレンジしている。



2016年全国新体操選手権大会での演技



2016龍潭新体操国際大会(台湾)での演技



AGG2016ワールドチャンピオンシップで



hagukumu

育むこころ

04

kokoro

生徒、学生一人ひとりが持つ輝きを大切に见守り続けたい



よしの・みさお
1950年大阪府生まれ。1968年樟蔭高校卒業、1972年中京大学体育学部卒業。同年母校である樟蔭中・高校体育科教諭に着任。2015年退職。教鞭をとる傍ら、創設間もない団体徒手部(現・新体操部)顧問を務める。以来、中高・大学の新体操選手の育成に携わり、多数の大会で優秀な成績を残す。趣味は旦那さまとの車での気ままな小旅行。

元樟蔭中学校・高等学校教諭 / 新体操コーチ

芳野 操 先生

長年にわたり体育の先生、中高新体操部の顧問として、本学の生徒、学生の指導に情熱を傾けてきた芳野先生。ご自身が樟蔭中学・高校の卒業生でもある先生が、生徒・学生とともに歩んできた日々を振り返ります。

◆樟蔭らしさは、いつの時代も変わらない

樟蔭高校で学んでいた頃は、バスケットボールに夢中でしたね。顧問をしておられた体育の先生が、学年や技能の分け隔てなく平等に教えてくれたおかげで、スポーツの楽しさを知り、自分も中学・高校の体育の先生になりたいと思うようになりました。樟蔭中学校・高校の教員になって、生徒たちの自由さ、活発さ、思いやり、明るさといった「樟蔭らしさ」は今も変わらないと改めて感じました。はじめて担任を受けもった年の修学旅行は、楽しかったですね。小岩井牧場や奥入瀬などを回りながら、生徒と一緒に大はしゃぎでした。その時のことは今でも同窓会で話題に出ます。高校の担任を受け持つことが多かったのですが、その時代に生徒たちによく言った言葉は「自分を大切に」です。生徒たちに厳しくするのはなく、自由を大事にするように努めていました。

◆新しい体操競技の普及にも挑戦

中学校・高校への着任と同時に、新体操部の顧問に就任。当時は団体徒手部という名称でした。教員を退職した現在も、中学校・高校と大学で新体操のコーチを務めています。着任当時は、新体操についてそれほど深くは知りませんでした。より深い知識を得ようと思い、昭和49年から審判員になりました。3種、2種、1種、国際審判員と、段階を追って資格を取得する過程で、ルールをはじめ、音楽、クラシックバレエにもつながる身体表現について、また各手具の特徴、どうすれば調和のとれた作品が完成できるのかなど、さまざまなことが学べました。現在は、2020年の東京オリンピックに向け、AGGという創作身体表現競技の普及、指導にも取り組んでいます。リボンなどの手具を使わないことと、グループでのストーリー表現を重視する点が新体操とは異なりますが、新体操の動きの基礎としても役立つので、樟蔭の新体操部では中・高生部員全員にAGGを指導しています。

◆どんな時も、そばにいるよ

全員が同じレベルをクリアするように指導する科目教育とは異なり、クラブ活動ではいろいろなレベルの生徒、学生に対して、それぞれが秘めた可能性を开花させてあげることが大事だと思っています。「どんな時もあなたを置き去りにはしない」「切り捨てたりしない」というメッセージを送り続けてモチベーションを維持し、その上で海外遠征や大きな試合など、さまざまな経験を課していきます。

中学生には基本をしっかり身につけてもらうため、細かいところまで手とり足とり教えますし、高校生にはグループごとに目標を決め、そこに向かって自分たちで考え、実行することを通じて、自主性を伸ばせるよう指導しています。

●●さん、■さんたち大学生は、自分たちが何をすべきかをしっかり理解しています。彼女たちには細かいことを言う必要はないので、むしろ、怪我をしない、自分のやりたいことを思い切りできるようにサポートすることが努めだと考えています。生徒、学生は、経験を積みれば積むほど、自信をつけてきます。その自信は、普段の立ち居振る舞いも明るく輝かせます。そんな樟蔭生たちの成長を、今後もしっかりと見守っていきたい。これからも楽しみでしかたがありません。



中学校・高校

笑顔の花満開の若葉祭

「天心蘭漫一笑顔の花を満開に」をテーマにした若葉祭を今年も開催しました。9月30日(金)は、中学1年生の音読・合唱をはじめ、ダンスやミュージカルなど完成度の高い舞台発表がありました。10月2日(日)は展示発表と模擬店でした。お化け屋敷や孵化したウズラの赤ちゃんのお披露目など趣向を凝らした展示はどれも見ごたえあるものばかり。フードスタディコースと食堂のコラボ弁当、スーパーボールすくいなどの模擬店も大好評でした。実行委員会のメンバーは「しんどかったけどやりがいを感じました」「みんなで力を合わせて一つのものを作っていくのがよかったです」と笑顔の花を咲かせました。



幼稚園×高校

幼稚園運動会 高校生がお姉ちゃん先生に

10月8日(土)、附属幼稚園の運動会を開催しました。園児たちはたくさんのお家の人がいることにドキドキしながらも、かけっこ、綱引き、リレー、樽太鼓など練習してきた成果を披露しました。どの競技も懸命に頑張る姿が見られました。運動会には樟蔭高校の児童教育コース1～3年生がお姉ちゃん先生として参加。衣装の着替えを手伝ったり、入場門まで誘導したり、道具の準備をするなど子どもたちをサポートしました。生徒にとって幼稚園実習は幼児教育の仕事を肌で感じる貴重な経験となっています。



学園

ホームカミングデー2016に多くの卒業生が参加

10月22日(土)、卒業生を母校へ招く「樟蔭ホームカミングデー2016」を開催しました。12回目となる今回は153人の卒業生が参加。思い出深い母校で懐かしい先生や友人との再会を喜び、会話に花を咲かせていました。当日は大学祭「くすのき祭」と同時開催となり、校内はたくさんの笑顔であふれました。また、毎年人気の「樟徳館」見学ツアーも行い、今年も多くの方々に、樟徳館の魅力を堪能していただきました。ホームカミングデーは2005年に開始し、毎年10年に一度の対象期にあたる卒業生を招待しています。また10年後、笑顔でお会いできる日を心待ちにしています。



幼稚園

想像力豊かな作品ばかり 園児たちの作品展

11月26日(土)に「28年度作品展」を開き、園児の想像力豊かな作品を披露しました。月組の「宇宙郵便局」は、園児が「ハガキをロケットポストに入れてくださいー！宇宙までお届けします」と元気に呼びかけました。虹組の「魔法の国」には仕掛けがいっぱい。花組の「ジャングル」は森の動物やロボットがお出迎えています。空組の「忍者屋敷」は忍者の修行ができるようになっています。星組は「森の中のピクニック」、風組は「電車で行こう!」を作りました。ほかにも、園児たちがこれまで描いた作品を展示し、子どもの成長を感じてもらいました。



空組の「忍者屋敷」

中学校・高校

今年は「シンデレラ組」が優勝 全校レクリエーション

中学の全校レクリエーションを9月23日(金)に行いました。台風の影響で順延し、予備日の23日も朝から雨模様。開催が危ぶまれましたが予定より1時間遅れて始まりました。今年は、赤組は「オーロラ組」、白組は「シンデレラ組」というお姫様の名前を付けて戦いました。玉入れ、パン喰いレース、障害物リレー、大総力祭(リレー)などの種目を競い、結果は「シンデレラ組」が勝利しました。勝ち負けはあるものの、どの学年も一生懸命で、笑いあり、涙ありの充実した一日となったようです。



大学

くすのき祭 「手紙～想いをカタチに～」をテーマに開催

10月22日(土)、23日(日)の2日間、大学祭「第66回くすのき祭」を開催しました。今年のテーマは「手紙～想いをカタチに～」。手紙には人とのつながりという意味が込められています。家族、友だち、周りにいる大切な人たちに普段言えないようなことを手紙で伝える大切さ、手書きならではの温かさを改めて感じるきっかけになればと思い、各団体の学生が準備に取り組んでいました。くすのき祭実行委員会は「手紙はカタチに残るもの。想いをカタチにして伝え合い、人とのつながりを大切に、卒業後も切れない絆をつくってほしい」と話しました。



華やかなイベントが目白押し

当日は、恒例の「袴コンテスト」や学生が企画・出演するファッションショー、ヘアショー、ステージイベントなど華やかなイベントが目白押し。人気のトークショーには映画やドラマで活躍する俳優さんをゲストに迎え、楽しい時間を過ごしました。また、スイーツや軽食など約40店の模擬店が出店し、キャンパスは大賑わい。来場した多くの方に楽しんでいただける2日間となりました。くすのき祭に託した「想い」が「カタチ」となり、ご来場いただいた皆様に届いていることを願っています。



中学校・高校

優勝は1年雲組、2年冬組、3年春組 体育祭を開催

9月23日(金)、高校の体育祭を開催しました。今年のテーマは「ポパイにほうれん草 オリーブに蘭を～強くそして志高く～」。開会式で創立時から歌われている本学オリジナルの「体育祭の歌」を全校生徒で合唱した後、競技を開始。障害物リレー、借り人競争、リレーなど、生徒たちはどの競技も真剣そのものでした。総合優勝は1年雲組、2年冬組、3年春組。毎年恒例の2年生の「みんなでパネル」は冬組、3年生の創作ダンス「青春の躍動」は月組が優勝しました。体育祭の後には、後夜祭も開き「青春の躍動」の再演などで大いに盛り上がりました。



「青春の躍動」で優勝した3年月組の演技

中学校・高校

高校3年生が聖バルナバ病院で体験学習

卒業を間近に控えた1月、3年生が聖バルナバ病院(大阪市天王寺区上本町)で体験実習を行いました。助産師による講義のほか、避妊・人工中絶器具の紹介、妊婦ジャケットを装着する妊婦体験、泣き人形を使った赤ちゃんのあやし方体験など保育と女性のからだについて学習しました。講義では、骨盤の模型などを使い、赤ちゃんがどのように生まれてくるのかを教わりました。さらに新生児室も見学し、ガラス越しに見える小さな命に生徒たちは顔をほころばせていました。



高校×大学

学問の楽しさに触れる高・大連携講座

樟蔭高校生に学問の面白さや大学で学ぶことの楽しさを知ってもらおうと、大学の教員が各学科の特徴を活かした授業を行っています。この講座は進路選択の参考になるよう幅広い分野で展開しています。今回紹介するライフプランニング学科との講座では、金融、保険、税金、マーケティングなどを学びました。高校生が学んだ内容をもとに自分たちでテーマを決め、アンケートを作成・集計して、読み取ったことをまとめました。好きなカフェメニューやスマホアプリの使用実態などをテーマに取り上げ、発表しました。



幼稚園

石うすとキネで本格的園児たちが「もちつき」

12月15日(木)、威勢のいい掛け声に合わせて「もちつき」を行いました。どんな風にお餅ができるのか興味深く見守っていた園児たちも杵を持ち上げ、力強くべったん、べったん。みんなで大きな鏡餅をつくり、新年を迎える準備をしました。



中学校・高校

中学・高校生が劇団四季「CATS」を観劇

中学・高校の2016年度の視聴覚行事は劇団四季の「CATS」の観劇でした。貸し切り公演となり、樟蔭生だけでCATSの世界を堪能しました。客席に何度もCATSが現れる演出に生徒たちは興奮しながら、ミュージカルの素晴らしさを体感しました。



幼稚園

園児たちの和菓子工芸を展示

11月15日(火)、16日(水)、大阪市中央公会堂で開かれた「大咲菓(おおさか)×Smile〜和菓子でつなぐ未来の笑顔〜」(大阪府生菓子青年クラブ主催)に園児が作った和菓子工芸が展示されました。青年クラブ55周年記念事業の一環。作品は青年クラブの皆さんと「春」をイメージして作りました。



大学

「かつらぎ町健康レシピづくりプロジェクト」(和歌山県)を実施

健康栄養学科安藤ゼミの学生が、町の課題である「塩分摂取量が高く、野菜が不足している食生活」の改善を目的に、減塩レシピを開発しました。地元食材を利用して開発したレシピは、町のHPや健康増進イベント・食生活指導での紹介や小学校給食への導入などが予定されています。



学園

英語教育センターで英会話のスカイプレッスンを開始

英語教育センター(ELTC)で、スカイプを使ったオンライン英会話レッスンが始まっています。マンツーマンで1レッスンは25分。昼休みや放課後にも対応しています。



中学校・高校

看護医療専科クラス病院で一日看護師体験

高校の看護医療専科クラス31人が病院で一日看護師体験をしました。白衣を着たり、手術室を見せてもらうなど貴重な経験となったようです。看護師志望の生徒は「なりたいという気持ちが一層強くなりました」と話していました。高校ではさらに専門性を高めた授業を展開します。2017年4月、看護医療系受験に特化した「看護系進学コース」を開設します。



大学

本物に触れ、豊かな心を養う「芸術と鑑賞」

学士課程の授業の一つに樟蔭基幹科目として「芸術と鑑賞」(担当:徳永正直教授)があります。コンセプトは「本物に触れ、豊かな心を養う」。音楽や美術の分野で活躍するプロのアーティストを講師に招き、芸術の真髄に触れるユニークな授業です。



大学

川野 佐江子准教授がTV番組「秘密のケンミンSHOW」に出演

化粧ファッション学科の川野佐江子准教授が1月26日(木)に放送された日本テレビ系列「秘密のケンミンSHOW」に出演しました。この番組は各県の文化や習慣の多様性に焦点を当てた人気バラエティ。川野准教授は「ナニワ美人の謎に迫る」コーナーで大阪の女性の特徴を解説しました。



大学

化粧ファッション学科の卒業制作展 学びの集大成を披露

1月18日(水)~24日(火)、2016年度卒業制作展を開きました。4年制大学で日本唯一、被服・化粧・美容の3領域をトータルで学んだ学生たちによる研究論文のパネル報告のほか、ドレスや写真集など卒業研究の成果92点を展示。純白のウエディングドレスや着物からのリメイクドレスなど全て自分のサイズで制作、見えない部分もしっかり作りました。そのほか、特殊メイクの写真集、プライダルゲストヘアメイクなど個性あふれる作品も並びました。



大学

国文学科・創作表現コースの学生が本を製作

国文学科の創作表現コースの学生が本を作りました。4回生はグルメ紹介・オリジナル小説などを掲載した「coffre a jouets」を完成させました。3回生は童話のスピノフ「Funny Fairy Tales -Grim-」を手掛け、2回生はコスメや短編小説、フェイクニュースなどを収録した雑誌「Mite」を作りました。学生たちの感性や表現力が詰め込まれた作品となっています。



中学校・高校

高校2年生 茶道・華道の授業紹介

「総合的な学習」として高校2年生は茶道(裏千家)と華道(小原流)を学んでいます。教養のひとつとして取り入れた学習です。半期ずつ週2時間、日本の伝統文化に触れることで、おもてなしの精神と礼儀作法を身につけることを目的としています。



食物栄養専攻の応募レシピ2作品が入賞

健康栄養学科・食物栄養専攻の授業「健康栄養研究」で取り組んだ応募レシピのうち「お米で世界を驚かそう!コメ・米粉レシピコンテスト」(自由民主党・女子栄養大学主催)に応募した「米粉のミニキッシュ」が佳作に。「おしゃべりキッチン あなたのレシピ大募集!」(トースターやオーブンを使ったレシピコンテスト、伊藤ハム株式会社主催)では「さっぱり和風ハンバーグ」が当選しました。



米粉のミニキッシュ



さっぱり和風ハンバーグ



高校美術部の●●さんが大阪市長賞を受賞

第65回大阪私学美術展(大阪私学美術・工芸教育研究会主催)で、高校美術部の●●さん(3年)の絵画「ローヴァンス街」が大阪市長賞を受賞しました。高校の部、全1037点のうち、第2席という素晴らしい結果です。作品は、10月8日(土)、9日(日)に大阪市中央区のNHK大阪ホールで開催された「大阪私立中学校高等学校芸術文化祭典 第30回記念大会」に展示されました。



受賞・祝辞
Congratulations



化粧文化コースの●●さんがコンテストで入賞

化粧ファッション学科メイクデザイン研究室4回生の●●さんが2つのコンテストで入賞しました。ひとつは「ミルボンフォトレビュー2016」(株式会社ミルボン主催)学生の部で入賞し、入賞作品の「LIFE-嫉妬」(写真)は「月刊Ocappa(オカッパ)」10月号に掲載されました。もうひとつは「HAIR & MAKE-UP PHOTO CONTEST 2016」(株式会社H&M BEAUTY主催)です。

森西真弓教授のエッセー 京都新聞に連載中

国文学科の森西真弓教授のエッセー「近松ものがたり」が京都新聞に連載されています。連載期間は2016年10月から2017年3月末までの全25回。毎週月曜日の「古典に親しむ」欄をご覧ください。とても読みやすく、古典文学が身近に感じられる内容となっています。

卒業生の●●さんが優秀論文賞を受賞

健康栄養学科の卒業生で、大学院人間科学研究科人間栄養学専攻(修士課程)修了生の●●さんが「第38回日本臨床栄養学会学術総会」で優秀論文賞を受賞しました。論文のタイトルは「クマゼミを用いた食用昆虫の栄養成分分析及び昆虫食に関するアンケート調査」。●●さんは「昆虫食に関する先行研究はまだ少なく、分からないことばかりでした。試料となるクマゼミを採集するのに苦労しました。未来の栄養学に寄与する可能性のある昆虫食について研究できたことをうれしく思います」と話します。



近鉄百貨店 ファッションショーを開催 共同開発した商品もPR

学生のセンスとアイデアが詰まった「クリスマスアコースティックライブ×ファッションショー」を12月17日(土)、大阪市阿倍野区あべのハルカス近鉄本店で開催しました。「TEAM☆Glitter」が企画運営。自分たちで創作した衣装を身にまとい、モデルも務めました。ショーの後、タオルハンカチ、ソックス、貼るだけピアスなどインターンシップを通じて商品化したアイテムもPRしました。



タオルハンカチ 日織商工株式会社

前田製菓 「タン塩風味クラッカー」

「あたり前田のクラッカー」でおなじみの前田製菓株式会社(堺市)と「タン塩風味クラッカー」を共同開発しました。学生ならではの視点を活かした新商品を提案し、商品化。和牛の牛脂を使って霜降りタンのような「甘み」を表現しました。気になってつい手に取ってしまう。そんな食べ切りサイズのお菓子に仕上げました。



「昆布とゆず明太子ふりかけ」

「鶏肉と昆布のバクチャー炒め」

くらこん 昆布をベースにした新商品を開発

日本経済新聞社と連携したインターンシップを通じて、株式会社くらこん(枚方市)に新商品開発を提案しました。学生は「昆布をベースにした新商品」開発に挑戦。「鶏肉と昆布のバクチャー炒め」と「昆布とゆず明太子ふりかけ」を商品化しました。バクチャー炒めは刻み昆布、人参、春雨、粉末バクチャーの具材をバクチャー風味のピリ辛ダレで味付けしました。ふりかけはとろろ昆布を使用したとろける食感に仕上げました。2つの商品は2月1日に発売されました。

門真市 ミカンを使ったエコクッキング

12月11日(日)、「イキ×ラボ・チャレンジプロジェクト(行政提案型)」の「チームミックスジュース」がミカンを丸ごと使ったエコクッキングを門真市立リサイクルプラザで開きました。門真市から依頼を受け、夏に続き2回目の開催。10組の親子と一緒に、ミカンの皮を使ってジャムを作り、パイに挟んでミルフィーユを完成させました。当日はJ:COMとFM/ハナコの取材を受けました。3月7日(火)には「イキ×ラボ学生プロジェクト報告会」でチームミックスジュースを含む14団体が活動を報告します。詳しくはイキ×ラボのFacebookをご覧ください。



インターンシップ実習生の様子

大阪樟蔭女子大学 × コラボ Collaboration



東大阪市 ロビーコンサート「お箏の演奏と人形劇」

1月15日(日)、箏曲部とCOC部がロビーコンサート「お箏の演奏と人形劇」を花園ラグビー競技場横の東大阪市立児童文化スポーツセンター「ドリーム21」で開きました。子どもたちが楽しめるようにディズニーメロデーやアンパンマン体操を取り入れ、会場を盛り上げました。当日の様子は東大阪市広報番組「虹色ねっとわーく」と「デイリーニュース東大阪」(J:COM)で紹介されました。

学園



創立100周年記念イベント「樟蔭百年」を開催

学園創立100周年を迎えるのを記念して、イベント「樟蔭百年」を8月20日(土)、21日(日)の2日間、大阪・梅田のグランフロント大阪で開催しました。イベントとして3回目となる今回は「次世代の樟蔭、無窮の大空を翔ける」をテーマに、女子教育を掲げた本学の建学の精神を体現化し、日ごろの取り組みの成果や活動、歴史などを紹介しました。来場者は2日間で約5500人(一昨年3000人)と、大勢の人々で賑わいました。1日目のオープニング前のフラッシュモブでは、中高生が中心となり、創立からの100年を学園のシンボル・くすのきの成長に見立てた物語を展開しました。後半はアップテンポにアレンジされた曲調の校歌を歌いながらパフォーマンスを披露しました。そして、人間国宝の竹本住太夫師匠に文案の魅力を語っていただいたほか、桂か



高校ダンス部による演技



国文学科書道コースによる書道パフォーマンス



化粧ファッション学科による樟蔭ガールズコレクション



江川悦子講師 特殊メイクの実演



幼稚園児「熊本がんばって」©2010熊本県くまモン 協力 熊本県大阪事務所



人間国宝 竹本住太夫師匠「文案はおもしろおまつせ」



大勢の人で賑わう会場



企業との商品開発 冷凍食品試食コーナー



児童学科学生による子育て広場

樟蔭オリジナル缶バッジで被災地を支援

会場では昨年の熊本県の震災復興を願って募金活動を行いました。ご協力いただいた方々には、くまモンと樟蔭とコラボレーションしたオリジナル缶バッジをお渡ししました。本学と熊本県とのつながりは2013年、くまモンが幼稚園に来園したのがきっかけ。学園では熊本地震発生後から、幼稚園保護者会、中高自治会、大学学生会が中心となり、学内でも募金活動を行ってきました。



学内での募金活動の様子

CLUB NAVI 19

中学校・高校 ダンス部



第5回 日本中学校ダンス部選手権 DANCE STADIUM 全国大会優勝



第9回 日本高校ダンス部選手権 DANCE STADIUM 優秀賞(3位)



高校生作品(中学3年生も含む)「Future fish ~旅に出る~」



高校生作品「何もしていないことが耐えられない症候群」

「踊りたい!」気持ちが原動力

リズムに合わせ、ひたむきに舞い踊る中学生・高校生たち。躍動的な演技で全国大会でも注目を浴びる樟蔭のダンス部の活動を紹介します。

ダンス部の部員数は、中学・高校合わせて70人。みんな舞台上に立ち、役になりきって表現することが大好きな生徒たちです。コンテンポラリーダンスを中心にしながら、ヒップホップなど多彩なジャンルにも挑戦しています。チームとしての目標は、全国大会で評価されるような作品を創って踊ること。目標があるからモチベーションが上がり、練習にも熱が入り



部長 ●●●●さん



副部長 ■■■■さん



ます。「チームの結束を固める秘訣は、声を出すこと。練習中は声を出し続け、つらくてもネガティブなことは言わないこと」と、部長を務める●●●●さん(高校3年)と副部長の■■■■さん(高校3年)は声を揃えます。練習の成果が実って、中学生チームは昨年の日本中学校ダンス部選手権で優勝。高校生チームも日本高校ダンス部選手権で3位入賞。みんなの活躍は、新聞にも大きく取り上げられました。

◆学年を超えて交流

大人数のクラブをまとめていくコツを聞くと、「いろいろな学年の子とよく話し合うことです」(●●●●さん)。中学と高校のダンス部は

それぞれ別テーマで踊るのですが、学年ごとに選ばれたリーダー同士の交流が盛ん。リーダー交流の中身は、作品を良くするにはどうするかなど演技に関することや、部員間のさまざまな相談事など。「クラブを良くするために、高校生が中学生の意見を取り入れることもよくあります」(●●●●さん)。ダンス部では、学年を超えたコミュニケーションが活発です。そんな部員たちが絶大な信頼を寄せているのは、豊富な経験と知識にもとづき、厳しく優しい指導を行っている顧問の青木郁美先生です。部長の●●●●さん、副部長の■■■■さんが揃って感じる点は「視点の柔軟さ、発想力」。みんなでネットや本で調べて振り付けを考え、他のコーチにも相談してまとめあげても、先生はさらに深い視点を提案してくれます。素晴らしいアドバイスを受けられる恵まれた環境も、樟蔭ダンス部の強さの秘密です。

大会でどんどん賞を取るようなチームは、初心者にとって入部はハードルが高いと思われるかもしれませんが、ダンス部に入るのに経験は不要です。「踊りたい、楽しみたいという気持ちさえあれば、ダンスは誰でも始められる」(■■■■さん)の言葉通り、初心者も経験者に交じってさまざまな踊りにチャレンジしています。



中学生作品「Pass That On To XXX」



『日本の食の未来』

大学 学芸学部 ライフプランニング学科 濱田 信吾 先生

はまだしんご
●大学 学芸学部
ライフプランニング学科
専任講師
奈良県生まれ。
2015年4月より大阪樟
蔭女子大学に勤務。専門
分野は文化人類学・フード
スタディーズ。



和食とは何か。米飯を主食とすること、地域それぞれの旬の野菜、そして魚介類を食することが日本の食文化の特徴に挙げられます。しかし、普段食する和食の食材がどこから来ているのかと考えると、和食の定義、そして未来は曖昧なものになってきます。

例えば、国産と言っても、外国産の食料資源なしには生産できないものが多いのが日本の食の現状です。日本の大豆の自給率は7パーセント。仮に大豆の輸入が途絶えると、味噌汁、豆腐や醤油の生産と消費ができなくなります。農業や畜産業に関しても、使用される肥料や飼料の多くは輸入に依存しています。ちなみに、世界で最も水揚げされる魚種は、ペルー沖で水揚げされるアンチョベータというカタクチイワシの一種です。このアンチョベータのほとんどは、人間の食用に

はならず、農業や養畜産業で使用される非食用の魚粉となります。海に囲まれ、海岸線の長さは世界第6位の日本は縄文時代から魚介類を食してきました。しかし、最近では養殖のものが多くなってきました。今世界で最も発展が著しい産業は水産養殖業だと言われ、国際問題となっているクロマグロも、ミナミマグロとともに地中海やオーストラリア、そして日本で蓄養業が行われています。しかし、マグロの養殖における飼料要求率は1:15と言われます。マグロ1キロの生育に15キロの餌量が必要ということですから。単純計算ですが、マグロを1キロと、餌として多用されるアジやサバ、イワシ類を15キロ、どちらを選択するほうが食料自給率は高くなるでしょうか。近年、「持続可能な成長」という話

もよく見聞しますが、そのようなものは期待できません。成長し続けなければ維持できない資本主義経済と社会システムに、地球環境についてはこれないからです。和食の未来、そして持続可能な日本社会に必要なのは、技術的解決によるマグロ消費の維持ではなく、青魚を三枚下ろしにして美味しく食べる料理技術と味覚の伝承ではないでしょうか。



春告魚であるニシンの水揚げ風景。今夜はニシンの煮物でもいかがですか？(北海道 厚岸にて)

STAFF @ SHOIN 10

橋本 友紀子 さん

中高図書館 司書

いつでも楽しめる本や情報の
テーマパークをめざして



はしもと ゆきこ ●大阪府出身。1974年3月樟蔭高校卒業。学生時代から中高図書館スタッフを経験。読書の趣味は幅広く、漫画、アニメも中高生目線で楽しむ。

図書館には静かなイメージがありますが、中高の図書館は、明るく、賑やかなことが特徴です。本を読みにくる人だけでなく、だれでもがワクワクできる場所になればという思いで、アニメ上映会や読み聞かせの会、オススメ本の紹介など、さまざまな催し物を行っています。年始にはおみくじを配る、福袋をつくるなど、図書館スタッフや図書委員の生徒たちとアイデアを出し合い、来てくれるみなさんを歓迎しています。

本を借りにくるのを待つだけではなく、時には本をワゴンに載せて教室へ出向く移動図書館も実施しています。また、「図書館だより」というHPもつくり、映画、小説など、興味をもってもらえそうな情報を紹介しています。最近では館内に設置された電子黒板を活用した授業も増えていますので、先生からのご要望に沿って準備することも増えました。

とはいえ、図書館司書は、来館者の調べ物のお手伝いが今も大切な業務。生徒たちは検索サイトに調べた言葉を入力すれば、答えが「一気にわかる」という状況に慣れています。「多数の文献を読んで自分で答えを探す」と言いつつ、最初は驚きますが、自分で調べ物ができるようになるとうれいいうです。『レポートが進んだ』『調べ物の仕方が分かった』などの声を聞くと、司書の仕事を一生懸命やっていると、よかったと思います。



全中高生の手描きメッセージによる「樟蔭生の樟蔭生による樟蔭生のためのブックリスト」



学校法人 樟蔭学園 大阪樟蔭女子大学/大学院 樟蔭高等学校 樟蔭中学校 大阪樟蔭女子大学附属幼稚園



樟蔭百年

